

3 汽車でいらっしやい

明治20年代(1887～1896)以降県内における鉄道網の整備が進み、昭和4年(1929)4月の上総興津—安房鴨川間の開通によって、鉄道による房総半島一周が可能となりました。

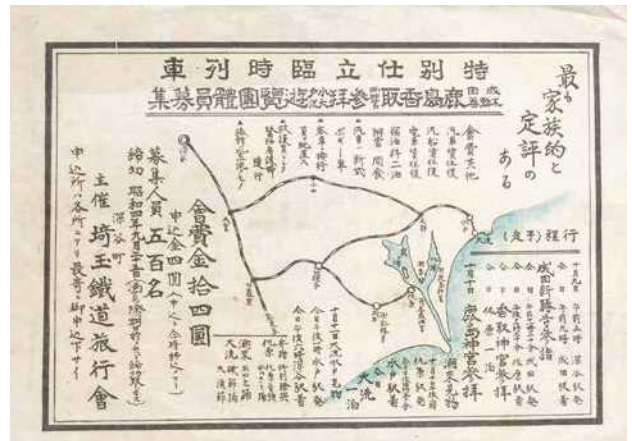
昭和初期、日本の観光事業を推進したのは鉄道省でした。国有鉄道の運營業務拡大等のため、大正9年(1920)に設置された中央官庁ですが、昭和5年(1930)に外局として国際観光局が設けられたように、このころから観光が産業施策のなかに位置づけられていきます。

鉄道省が発行するガイドブックに合わせるように、千葉県に関する旅行案内書も地域限定のものから鉄道路線案内的なそれへと変わっていきます。また、県内観光地の紹介機関としての「房総観光協会」や県内各地に「観光協会」が誕生するのもこの頃です。さらに、新聞社等による観光案内や観光雑誌の発刊なども盛んに行われるようになり、昭和10年(1935)5月には房総唯一の観光雑誌として『観光の千葉県』が発刊されます。

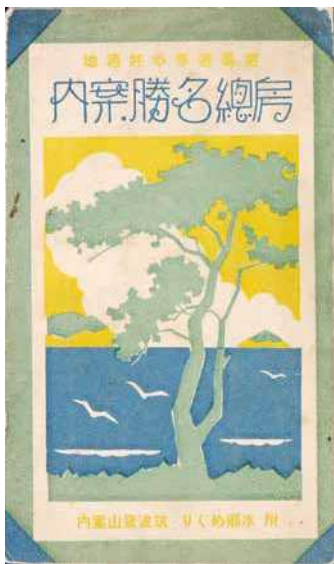


36.『風俗画報』 明治36年(1903)

上野—成田間を結んだ成田鉄道車内に設けられた喫茶室の様子。



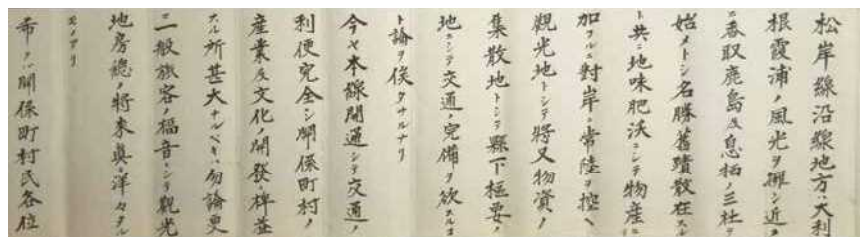
27.特別仕立臨時列車成田不動尊鹿島香取両神宮参拝
水戸大洗遊覧団体員募集 昭和4年(1929)



29.『房総名勝案内』

昭和4年(1929)

著者は大東京の近くには房総というオアシスがあると房総の素晴らしさを記した。



30.(佐原—笹川間開通の祝辞) 昭和6年(1931)

成田線佐原—笹川間の開通に際し、房総観光協会会長が、この開通によって観光地房総の将来は洋々であると祝辞を述べた。

28.『鉄道旅行案内』

大正10年(1921)

鉄道省が発行した鉄道利用のガイドブック。厚さは3センチ。

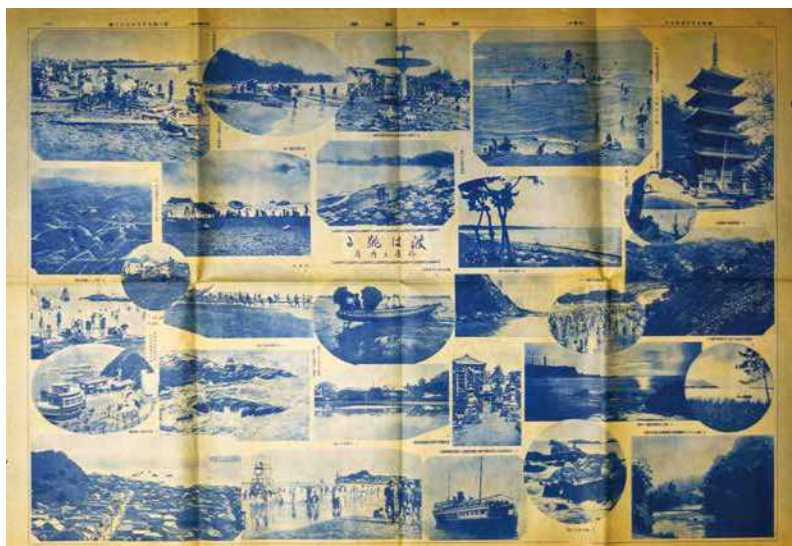




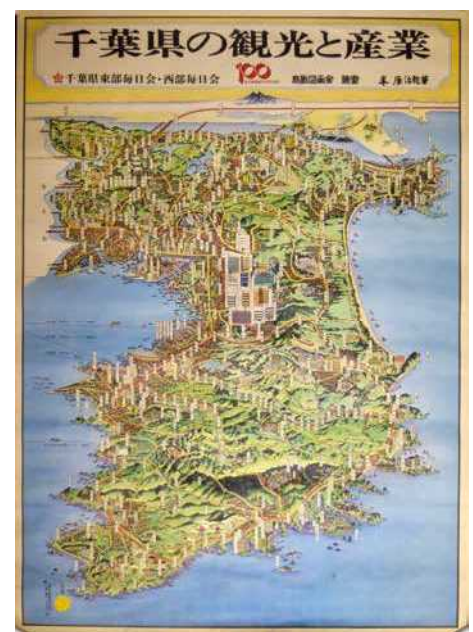
31.『観光の千葉県』 昭和10年(1935)
千葉観光社を興した由良保三が発刊した本格的な観光専門誌。



34.『房総観光と産業』 昭和27年(1952)
まさに青いチーバくん。



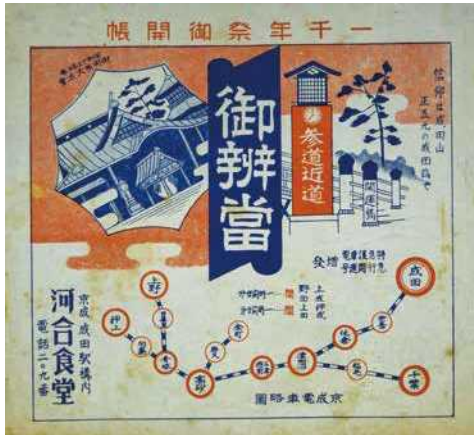
38.『報知新聞』特別付録 昭和7年(1932)
「海へ山へ」と房総の観光地を特集した付録。



42.千葉県の観光と産業 昭和45年(1970)
毎日新聞の創刊100号を記念して峰庫治が地図を描いた。

駅弁掛け紙コレクション

鉄道旅行の楽しみは、なんと言っても駅弁です。ここでは、駅弁の掛け紙のコレクションを紹介します。



43-1 御辨當



43-4 ちらし風磯弁



43-5 やきはま弁當



43-2 とんかつ弁當



43-6 千葉寿司街道秋刀魚



43-3 トンかつ弁當



43-7 スペシャルお好み弁當

3 汽車でいっしょい



43-8 若潮弁当



43-12 御寿司



43-9 味ごよみ



43-13 千葉万葉



43-10 あわびちらし



43-14 若潮弁当



43-11 赤飯弁当



43-15 幕の内風御弁当